

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪バイオメディカル専門学校
設置者名	学校法人 佐藤学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	バイオ学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	バイオ技術学科(昼間)	夜・通信	160 時間	160 時間	
	IT プログラミング学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
文化・教養専門課程	日本語学科(2年)	夜・通信			※
	日本語学科(1年6か月)	夜・通信			※
	日本文化教養学科	夜・通信			※
商業実務専門課程	医療事務総合学科	夜・通信	160 時間	160 時間	
	医療福祉心理学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
(備考) IT プログラミング学科は、令和7年度新設学科であり、完成年度に至っていない					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.obm.ac.jp/about/history.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名：ITプログラミング学科、日本語学科（2年）、日本語学科（1年6か月）、日本文化教養学科

（困難である理由）

ITプログラミング学科は、2025年4月開講であり完成年度に達していないため、実務経験のある教員の担当する授業時数を確保することが困難である。

日本語学科（2年）、日本語学科（1年6か月）は、海外からの留学生を対象に日本語教育を行う学科（日本語教育機関）のため、また、日本文化教養学科は、特定の職業を想定せず、専ら日本の文化、所作に関する知識、技能の修得を目的する学科のため、実務経験のある教員を配置することが困難である。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪バイオメディカル専門学校
設置者名	学校法人 佐藤学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.obm.ac.jp/about/history.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社取締役 (平成14年8月1日～)	平成20年4月1日～令和9年6月開催の定時評議員会終結時まで	組織運営体制へのチェックおよび経営計画の策定
非常勤	医師 (平成20年4月1日～)	令和2年4月1日～令和9年6月開催の定時評議員会終結時まで	学校運営に関する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪バイオメディカル専門学校
設置者名	学校法人 佐藤学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>					
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) バイオ学科(3年制)、バイオ技術学科(昼間)(2年制)、ITプログラミング学科(3年制)、医療事務総合学科(2年制)、医療福祉心理学科(3年制)</p> <p>※授業計画(シラバス)の作成過程 授業計画(シラバス)は、毎年度学科会議を開催し、以下の内容について検討を行うことで作成している。 1) 授業内容、2) 到達目標、3) 授業方法、4) 授業科目の設定、5) 授業スケジュール、6) 担当教員、7) その他必要事項</p> <p>※公表時期 前期および通年科目については、前年度の3月末頃、後期科目については当年度の8月末頃にWebサイト上に公開している。</p>					
授業計画書の公表方法		https://www.obm.ac.jp/about/history.html			
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>					
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験・授業態度・出席状況・実習の成果・発表・レポート等を総合的に評価する。配点は下表のとおり。</p>					
出席点	40点	出席時数が各科目の3分の2以上の者に対し、その出席時数に応じて評価する			
試験点・平常点	60点	本試験は60点満点で評価する			
<p>上記総合評価が60点以上の者に当該教科の履修を認定し、評定は点数に応じて、下表のとおりとする。</p>					
総合評価	90点以上	89点以下 80点以上	79点以下 70点以上	69点以下 60点以上	59点以下
評定	S	A	B	C	D
合否	合格	合格	合格	合格	不合格

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA制度を採用しており、その算出兵法は、総合成績の評定(S・A・B・C・D)に応じて5段階のグレードポイント(以下GP)を設定し、各履修科目のGPに科目の単位時間数を掛けた値を全履修分合算した上で、全履修科目の単位時間数で割り、小数点第3位以下を切り捨てる。</p> <p>各評定とGPの関係は下表のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>可否区分</th> <th>評価</th> <th>評点</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>S</td> <td>100点～90点</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>89点～80点</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>79点～70点</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>69点～60点</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>D</td> <td>59点以下</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>履修取消</td> <td>-</td> <td colspan="2">GPA算出対象外</td> </tr> </tbody> </table>		可否区分	評価	評点	GP	合格	S	100点～90点	4.0	A	89点～80点	3.0	B	79点～70点	2.0	C	69点～60点	1.0	不合格	D	59点以下	0.0	履修取消	-	GPA算出対象外	
可否区分	評価	評点	GP																							
合格	S	100点～90点	4.0																							
	A	89点～80点	3.0																							
	B	79点～70点	2.0																							
	C	69点～60点	1.0																							
不合格	D	59点以下	0.0																							
履修取消	-	GPA算出対象外																								
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.obm.ac.jp/about/history.html</p>																									
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「為世為人 技器育成」を綱領とし、個性を大切にしながらも技(技術)と心を磨き、他人を支え未来を築く人材の育成を目標としています。この目標達成に向け、本校では教育課程を通じて授与する学位に関して、以下に示す2つの方針に従って、専門士の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科に所定の期間在学し、卒業並びに修了に必要な単位時間を修得し、当該学科が定める審査に合格する。 ・ 卒業までに、本校学生が、それぞれの学科の教育課程を通じて身に付けるべき以下の能力を修得する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的な知識 2. 現場で役立つ技術、特にコミュニケーション、チームワーク、プレゼンテーションの能力 3. 磨かれた心、特に他者への思いやり、総合的な経験に基づき問題解決に向けて邁進する能力 <p>それぞれの学科の教育課程で身につけるべき専門的知識は、各学科で定める。</p>																										
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.obm.ac.jp/about/history.html</p>																									

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪バイオメディカル専門学校
設置者名	学校法人 佐藤学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.obm.ac.jp/about/history.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.obm.ac.jp/about/history.html
財産目録	https://www.obm.ac.jp/about/history.html
事業報告書	https://www.obm.ac.jp/about/history.html
監事による監査報告（書）	https://www.obm.ac.jp/about/history.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	バイオ学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550 単位時間	990 単位時間	660 単位時間	2,400 単位時間		
			4,050単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		92人	10人	4人のうち 数	11人のうち 数	15人の うち数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃にWebサイトに公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 年間850単位時間以上の履修をもって進級とし、バイオ学科所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。 ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	37人 (94.9%)	2人 (5.1%)
(主な就職、業界等) 医薬品、食品、環境調査会社、再生医療関連業界など			
(就職指導内容) 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など			
(主な学修成果(資格・検定等)) バイオ技術者認定試験(中級)、環境社会検定、QC検定(3級・4級)など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96人	1人	1.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> ・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携 ・スクールカウンセラーとの面談 など 		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	バイオ技術学科 (昼間)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	570 単位時間	750 単位時間	1,680 単位時間	単位時間	単位時間
			3,000単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	55人	17人	4人のうち 数	11人のうち 数	15人の うち数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃にWebサイトに公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 年間850単位時間以上の履修をもって進級とし、バイオ技術学科（昼間）所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） ・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。 ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 医薬品、食品、再生医療関連業界、環境調査会社など			
（就職指導内容） 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） バイオ技術者認定試験（中級）、環境社会検定、QC検定（3級・4級）など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	1人	2.1%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携 ・スクールカウンセラーとの面談 など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ITプログラミング 学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550 単位時間	930 単位時間	1,710 単位時間	1,320 単位時間		
			3,960単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	22人	15人	1人	4人のうち 数	5人のうち 数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃にWebサイトに公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 年間850単位時間以上の履修をもって進級とし、ITプログラミング学科所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） ・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。 ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図

る。
 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 2025年4月新設学科のため、卒業生不在			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、家庭の事情、就職など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携 ・スクールカウンセラーとの面談 など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 (2年)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,600 単位時間	320 単位時間	1,800 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,120単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		121人	121人	5人のうち 数	22人のうち 数	27人の うち数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃に Web サイトに公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 年間800単位時間以上の履修をもって進級とし、日本語学科（2年）所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
56人 (100%)	51人 (91.1%)	2人 (3.6%)	3人 (5.4%)
（主な就職、業界等） 介護、飲食業界			
（就職指導内容） 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
122人	8人	6.6%

(中途退学の主な理由) 進路変更、家庭の事情、就職など
(中退防止・中退者支援のための取組) ・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携 ・スクールカウンセラーとの面談 など

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本語学科 (1年6か月)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	1,200 単位時間	305 単位時間	1,350 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			1,655 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		38人	38人	5人のうち 数	22人のうち 数	27人の うち数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃に Web サイトに公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて80点以上を「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 年間800単位時間以上の履修をもって進級とし、日本語学科（1年6か月）所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
(概要) ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37人 (100%)	31人 (83.8%)	3人 (8.1%)	3人 (8.1%)
（主な就職、業界等） 介護業界、飲食業界			
（就職指導内容） 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	2人	5.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、家庭の事情、就職など		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携 ・スクールカウンセラーとの面談 など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	日本文化教養学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間	700 単位時間	550 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			1,250単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		83人	83人	2人	9人のうち 数	11人の うち数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃に Web サイトに公表する。

成績評価の基準・方法
(概要) 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて80点以上を「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 年間800単位時間以上の履修をもって進級とし、日本文化教養学科所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
(概要) ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
75人 (100%)	65人 (86.7%)	8人 (10.7%)	2人 (2.7%)
(主な就職、業界等) 飲食業界、ホテル観光業界、不動産業界など			
(就職指導内容) 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験(JLPT)、日本留学試験(EJU)など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84人	9人	10.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学校生活不適合、家庭の事情、就職など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療事務総合学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	735 単位時間	1,875 単位時間	480 単位時間		
			3,090単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		63人	1人	3人	16人のう ち数	19人の うち数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃にWebサイトに公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて80点以上を「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 年間850単位時間以上の履修をもって進級とし、医療事務総合学科所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） ・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。 ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
50人 (100%)	0人 (0.0%)	47人 (94.0%)	3人 (6.0%)

(主な就職、業界等) クリニック、総合病院、調剤薬局など
(就職指導内容) 校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など
(主な学修成果(資格・検定等)) 診療報酬請求事務能力認定試験、調剤事務管理士、Word 検定、Excel 検定 など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91人	5人	5.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神疾患等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療福祉心理学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550 単位時間	1,830 単位時間	1,870 単位時間	1,200 単位時間	120 単位時間	
			5,020 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		99人	0人	3人	27人のうち数	30人のうち数	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画(シラバス)は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度3月末頃、後期科目は8月末頃にWebサイトに公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を60点、「出席点」を40点とし、総合評価は100点満点で算出する。

上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

年間850単位時間以上の履修をもって進級とし、医療福祉心理学科所定の各授業科目の総合成績評価に基づき全課程を修了し、所定の修業年限以上在学した者に対して、卒業を認定し、卒業証書を授与する。

学修支援等

(概要)

- ・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。
- ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。
- ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	27人 (81.8%)	6人 (18.2%)

(主な就職、業界等)

介護施設、児童福祉施設、精神科病院、社会福祉法人など

(就職指導内容)

校内就職説明会の開催、履歴書等添削指導、面接指導など

(主な学修成果(資格・検定等))

保育士試験、ビジネス実務マナー検定、Word検定、Excel検定 など

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
111人	11人	9.9%

(中途退学の主な理由)

精神的疾患、学校生活不適合、進路変更など

(中退防止・中退者支援のための取組)

- ・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者等との連携を図る。
- ・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
バイオ 学科	150,000 円	980,000 円	500,000 円	教科書代、教材 費、各種検定料等 の諸費用は別途必 要
バイオ技術学科 (昼間)	150,000 円	900,000 円	400,000 円	
IT プログラミング 学科	150,000 円	980,000 円	370,000 円	
日本語学科 (2年)	60,000 円	630,000 円	85,500 円	
日本語学科 (1年6か月)	60,000 円	630,000 円	82,600 円	
日本文化教養 学科	100,000 円	850,000 円	131,500 円	
医療事務総合 学科	150,000 円	900,000 円	150,000 円	教科書代、教材 費、各種検定料等 の諸費用は別途必 要
医療福祉心理 学科	150,000 円	980,000 円	270,000 円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.obm.ac.jp/about/history.html		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 企業等の学校関係者への教育課程に関する情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図る。 評価項目について、校長を責任者として翌年度に向けて定期的に会議等により改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社総合水研究所 代表取締役	2019年4月1日～2027年 3月31日(任期更新)	企業等委員
株式会社ボゾリサーチセンター 代表取締役	2019年4月1日～2027年 3月31日(任期更新)	企業等委員
大阪府中央区地域振興会 会長	2019年4月1日～2027年 3月31日(任期更新)	地域住民
卒業生保護者	2019年4月1日～2027年 3月31日(任期更新)	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.obm.ac.jp/about/history.html		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.obm.ac.jp/about/history.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310001842
学校名 (〇〇大学 等)	大阪バイオメディカル専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 佐藤学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		70人 (0) 人	59人 (0) 人	70人 (0) 人
内訳	第Ⅰ区分	40人	37人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	12人	8人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	12人	8人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	-	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				70人 (0) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	-	-
計	-	-	-

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	-	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	-	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。